

西之表 市政の窓

第382号／平成7年1月1日発行 ■発行／鹿児島県西之表市役所 ■編集／総務課秘書広報係 ☎09972②-1111 F A X②-0295



下西(国道58号)上空300mより：平成6年11月・古賀栄一氏撮影

迎春

あなたも、110年前のカシミア号事件のことをご存知でしょう。アメリカの貨物船が種子島沖で難破し、その漂流者を立山、安城、伊関が村を挙げて救済に当たったことを。人類愛。今年は何か大切なものを思い起こしてくれる年になるのかも。

空と海の青、山の緑、そして光と風。私たちの西之表市は、今年も素晴らしい自然の中で、新しい年を迎えました。

今月号の主な内容

平成7年
1995. 1

- | | 頁 |
|-----------------------------|-----|
| ●新年の抱負 市長 榎本修…………… | ②～③ |
| ●(特集)日米草の根サミットとカシミア号事件…………… | ④～⑨ |
| ●さとうきび品質取引始まる…………… | ⑩～⑪ |
| ●アリモドキノウムシ防除へ前進…………… | ⑭ |
| ●市内一周駅伝大会で下西優勝…………… | ⑮ |
| ●鉄砲村にぎわいバザール…………… | ⑯ |
| ●種子島相撲大会…………… | ⑰ |
| ●郷土芸能の宝庫「種子島」…………… | ⑳～㉑ |
| ●高額療養費制度ってどんなもの?… | ㉒ |

新年の抱負

西之表市長
榎本 修



市民の皆さま、明けましてお目出度うございます。皆さまにはご家族お揃いで清々しい一九九五年、平成七年の新春をお迎えのこと心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年一年を顧みますと、細川連立内閣が三月解散。羽田内閣が誕生したものの少数与党のため保ち得ず六月解散。代わって七月、自由民主党、社会党、さきがけ三党による村山内閣が誕生、今日に至っておりますが、依然として政局は内外ともに厳しい中で推移いたしております。然し、本市に於いては夏場の干ばつによる農作物被害が心配されたものの台風による被害も少なく適量な雨量と日照量にも恵まれ、米作・甘藷ともに豊作であり、特に「さとうきび」に於いては反収・糖度ともに昨年を大きく上回る見込みであり、本年度より実施される品質取引については農家手取り標準価格で二〇、四一〇円と前年度価格を一、五五〇円程度上回ることが予想され、又ここに、二年低迷を続けていた和牛仔牛価格も十一月セリ市平均価格三万七、五八二円と底値を脱した感があり、この様に明るさが伺える状況で新年を迎えることが出来たことを皆さんとともに心より喜ぶものであります。

又一方、バブル経済の崩壊に端を発した我が国の社会経済情勢は、政局の混迷と相俟って極めて深刻な状況を呈していましたが、今日にいたり、ようやく明るい兆しが見えて来たようであります。が、しかし、いまだに長引く経済不況は地方財政各般に亘り大きな影響をもたらしております。然しその中で、市政推進について私は公約実現のため第三次長期振興計画を中心に諸施策を進めて参りました。

平成六年度の重要な事業をみますと、①老人デイサービス・在宅介護支援センター事業、②南部簡水

事業完成に継ぎ現和簡水拡張事業、③安城小学校プール建設事業、④中山間整備事業、その他、西京ふるさと農道整備事業、都市計画街路事業等々その成果を収めつつあることは議会をはじめ市民皆さまのご理解とご協力によるものと深く敬意を表し感謝申し上げます。

さて、平成七年度より平成十一年度まで第三次長期振興計画の後期に当たります。この後期計画を策定、先の十二月議会で議決を得、執行することになりました。三次計画の『人情豊かな明るく力強いふるさとの創造』を基本理念とし「日泊交流の地・花と香りのロマン島」を構想として踏え

1、活気に満ちた産業の振興と豊かな市民生活の創造

- ① 新農業構造改善事業（農業管理センター、集出荷センター、堆肥センター、バイオ施設）
- ② トコブシ養殖場整備
- ③ 林業山村活性化林業構造改善事業
- ④ 種子島マリンゾーン整備計画（浦田・喜志鹿崎・牧場・鉄浜等ゾーン施設）

2、市民生活の充実とるおいある環境づくり

- ① 在宅福祉の充実（給食宅配事業）
- ② 保健センター設置
- ③ 公営住宅建設
- ④ ごみ処理場建設

3、あしたをひらく心豊かで創造性に富む人づくり

- ① 生涯学習の充実
- ② 中学校再編計画
- ③ 小学校改修・建築等の計画

▶この子らが社会に飛び立つ21世紀もすぐそこに来ています(平成6年度市健康優良児らと)



4、二十一世紀に引き継ぐふるさとづくり

- ① 市庁舎建設
- ② 道路・港湾整備
- ③ 公園整備
- ④ 西之表港マリンタウン構想とまちづくり計画
- ⑤ 定住促進団地整備

以上、四つの柱のもとにその具体的施策を進めて参ります。市民皆さま方の暖かいご理解とご協力を心より願います。

さて、平成七年、今年は終戦五十年目に当たります。光陰矢の如し、早、戦後半世紀が過ぎ、感慨無量なるものがあります。この節目の年に当たり、あらゆる恩讐を超え、鹿児島県では「日米草の根サミット大会」が秋ごろ行われる様であります。特に民間レベルでの交流のさきがけは私たち先祖の伊関・安城・立山の皆さんによるカシミリア号漂流者救助(一八八五年・一〇年前)の偉業でありましょう。この行為のもつ意義は両国民の民族を超え、理屈ぬきの人類愛に根ざした心の交流として高く評価されるものであり、私たち市民の誇りとするところであり、この心根こそ、世界平和の基であると断言するも過言でないと思います。これ等をとらえ、古市吉男・大園純也両先生に新春対談をお願い出来ましたこと無上の光栄と感謝いたしております。

このように素晴らしい意義ある平成七年。全てのことが名実ともに素晴らしい年でありますことを皆さんとともに念じ、私も自他ともに明るく豊かで誇りをもって生活出来る西之表造りに不借身命邁進することを決意し、年頭のご挨拶といたします。

平成七年 元旦

カシミアの^{きずな}絆さらに太く Seeing is believing キーワードは「百聞は一見にしかず」



日米草の根サミット—ジョン万次郎

今から約150年前、土佐の中濱万次郎は、わずか14歳の時に初めて漁に出て遭難し、鳥島に漂着していたところをアメリカ捕鯨船のホイットフィールド船長に救出された。万次郎は船長の好意によりアメリカで教育を受けて帰国し、日本の開国に貢献した。このジョン万次郎とホイットフィールド船長の友情の精神を記念し、国や肩書きを超えた交流の精神をベースに、日米間の相互理解を深めることを目的として1990年11月に「ジョン万次郎の会」が東京で設立された。

現在、国や経済団体レベルでの交流は数多く行われている。しかし、原点である個人同志の交流は余り活発に行われていないのが実情である。このため、こうした「草の根交流」の趣旨に賛同するボランティア有志が中心となり、1991年11月に東京・京都にて「第1回日米草の根交流サミット大会」が開催され、総数2300人の日米の参加者が互いに意

南日本新聞社取締役
(前、編集局長)

大 園 純 也 氏

古市

戦後50周年の節目と重なって第5回「日米草の根交流サミット大会」が今年の秋ごろ鹿児島で行われます。このサミットは、そもそも日本とアメリカの交流の原点である民間交流を通じて、両国の良好な関係を形成していこうというねらいが根本にあるわけですが、日米間の民間交流といえますと漂流者救済のアメリカ版「ジョン万次郎」もさることながら、日本版の「カシミア号事件」が浮上し、焦点が当たる年だろうという気がします。このカシミア号事件は大園さんが記者時代に掘り起こされたわけですが。





'95日米草の根サミットで 鹿児島・種子島が浮揚

見交換を行った。同大会は、任意団体「ジョン万次郎の会」の日米の会員有志に各企業・団体が協賛し、日米草の根交流サミット実行委員会が主催となつて行われ、今後日米交互に「日米草の根交流大会」を開催することが宣言された。第2回はボストンで開催され、名古屋、バージニアとつづき、今年の第5回大会は鹿児島での開催が決定している。

カシミア号事件

(文:太平洋のかけはし
羽生操著書より)

1885年秋、アメリカの貨物船カシミア号は、種子島の沖合いで暴風雨にあい、上級船員3人を失つて難破した。残った12人の乗組員は、手に分かれ、絶望と恐怖の漂流のはてに種子島(立山と伊関の海岸)に流れ着いた。そして島の人々の温かい手に救助された——これは、全アメリカを感動させた種子島島民の善意の記録であり、また、海難史上もつとも劇的なできごととして伝えられるものである。

県国際交流協会専務理事
(元、熊毛支庁長)

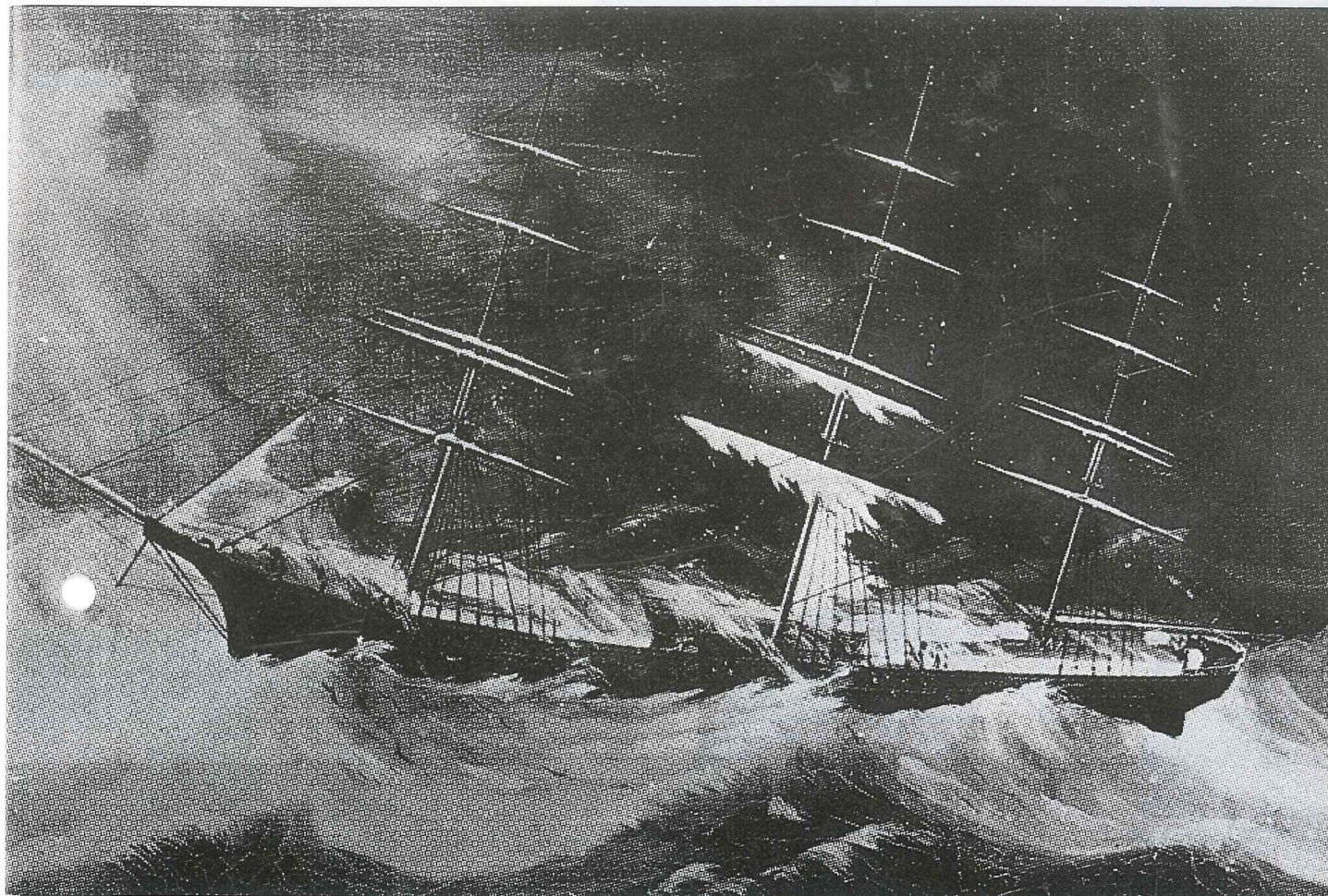
古市吉男氏

大園

明治18年(1885)秋、種子島沖でアメリカの石油運搬船カシミア号が難破し、島人たちが救助に当ったカシミア号事件については古くは羽生操(みさお)先生が書かれた本(「太平洋のかけはし」昭和48年刊行)などがありまして、種子島ではずいぶん昔から知られている事なんです。大変、感動的な話であるという事は私も聞いてはいたのですが、世界的な広がりをもって、日米関係を考える上で非常に大きな意味を持つものではないかと思ひまして、昭和54年(1979)から翌年にかけて取材しました。これまで、どちらかというと単なる漂着物語としかとらえられなかったこの話が、アメリカ取材を通じて、実は大変な広がりをもっているということがわかったのです。昭和55年元日号からおよそ半年にわたって新聞連載し、翌年には単行本(「太平洋のかけはし」(南日本新聞社編集)にもなりました。

古市

カシミア号事件を掘り起こされた契機は、一つには創立百周年を迎えた南日本新聞社の記念事業ということもあつたわけですね。



▲種子島沖で嵐とたたかうカシミア号(セイラム市ピーボディ博物館所蔵の油絵)

大園

そうです。海外取材というのはなかなかお金がかかるものです。当時はなおさらでして、新聞社の節目の事業として実現しましたが、実は、それ以上に、地域にある非常に誇らしい、いわば歴史的財産というのでしょうか、世界的な資産を広く国内、世界の方々に知っていただくことは地域のジャーナリズムとして大事な役目だという意識がありました。そのねらいで社が取り組んだ事業ということも言えます。

古市

カシミア号事件でのできごとは日米草の根交流サミットの精神、つまり、民間レベルでの交流促進に非常にふさわしい話題ということで、大園さんは一昨年の名古屋でのサミットに招待され、分科会でカシミア号について講演されましたが、やはり皆さんの感動を呼び、全国に向けてのアピール効果は相当大きかったと思いますね。それが、今年の鹿児島大会開催へのきっかけにもなったと思います。しかし、考えてみると、草の根交流の原点としてアメリカに「ジョン万次郎」があり、鹿児島に「カシミア号事件」がある。あの時代、東南アジアが野蛮な国々と見られ

ていた頃、漂着者を温かく救援した「カシミア号事件」は感動と共にアメリカ議会でも大きくとりあげられ、当時ではとうとうもない謝礼金5千ドルが贈られるという展開になりました。しかも、種子島では戦時中でも、連綿として紀徳祭が行われ、現在も続いているという。アメリカで救助されたジョン万次郎が再上陸した鹿児島、種子島で救われたカシミア号、まさに今年こそは、鹿児島、種子島が日米交流で浮揚するいい年ではないかと思います。

大園

種子島はその昔から、黒潮に乗って日本を目指す航路の丁度入口に当たるわけですから、船がしばしば難破したり、漂着したりすることは地理的な条件によるものです。1543年の明国船漂着での鉄砲伝来、1885年のカシミア号難破、そしてインギー島で知られる1894年のドラムエルタン号座礁などがその代表的なものでしょう。しかし、歴史というのは偶然だけではないと考えるのです。植物の種子は飛んでいった所で全部芽を出すかというところではないですよ。ある所でしか芽を出さないし、芽を出しても枯れてしまう。しかし、実を結ぶところ



▶カシミア号乗組員から鎌倉平兵衛に贈られた「水差し」とアメリカ合衆国大統領から岩坪兵左衛門に贈られた金メダルが当時を語る（現在、種子島開発総合センターに展示）



不思議な歴史の島“種子島、 種子島が日本の評価を上げた



▲対談する大園氏と古市氏
(鹿児島市内のアイムビルにて)

があるんです。先日にも新聞に、季節はずれの大きなスイカが実ったという話が出ていました。スイカなんてあっちこちに種子をばらまいているのですが、どこかしこにもスイカができるわけではない。当時、船の遭難はありふれていた。しかし種子島だけに鉄砲が伝わり、しかも国産化された。いわば、スイカの種子が実を結んだのです。時の領主時堯の英知、刀鍛冶八板金兵衛の努力も大きいですが、それ以上に西洋文明という「種子」が結実するまで育んでくれる何か、つまり堆肥みたいなものが種子島にあると思うのです。この堆肥があつてこそ、カシミア号事件が単なる漂流物語を超えた歴史的な役割りを果たすことができたと言えるのではないかと。これらは決して歴史の偶然でなくて、何か種子島

という地域がそういう非常に高い意味でのベースをもちあわせて、先駆的な役目、意義をはたしてきたのではないかとこのように考えるわけです。

古市 確かに、鉄砲伝来についても偶然ではないと思います。種子島ではなくて別の島に流れ着いていたら、恐らくは国産化までには到らなかったでしょう。やっぱり良質の砂鉄が出るとか、固い木が豊富で溶鉱炉に代わる高熱を発する燃料があり、優秀な鍛冶がいたという、物的、人的要素がそろった島に漂着するのですから昔から言われるとおり、種子島はやはり、「不思議な歴史の島」なんですね。

大園 ジョン万次郎についても単なる偶然ではなくて、歴史の必然だと思っています。国禁を犯して日本に再上陸し、鹿児島にきたアウトロー

のジョン万次郎を「この男は捨て置けない」と見とおした島津斎彬の見識。そして、この人なら海外で得た全知識を託してもよからうと応えた万次郎の燭眼（するどい眼力）。カシミア号とは異なるものの、やはり高いレベル同士での人間のふれ合い、日米交流の原点として最も必要なものだという気がします。

一方、カシミア号事件が意味するところは、種子島が生んだ史学者でジャーナリスト西村天因の著書「南島偉功伝」に言い尽くされています。次に一節を引用します。

「――米政府は如何に日本国内の一孤島が文明の風儀に慣れて優にやさしく情あるを感じけん。一孤島猶且つ然りとて、如何に日本国内の文明を称しけん。而して日本の交誼を資くる如何ばかりぞや……」

文明というのはヨーロッパとアメリカ人だけがもちあわせているという思いあがり支配していた頃に、日本という、まだ地図にもろくに載っていない、認知されていない野蛮であるはずの国で、介抱してくれた人々が英語で語りかけ、また中国語で筆談したのである。こういう寒村でさえも、このように素晴らしい文明を持っている



▲地元負担金の一部をカシミア号贈与金で賄い、昭和16年12月に完成した西京橋(長さ33m、巾3.9m)。それまでの木橋は大雨のたびに破壊され、児童の通学も大変だった。現在の通学路はこれから50mほど下ったところに昭和49年2月完成した新しい西京橋を利用している。(旧西京橋を見学する伊関小児童、平成6年12月17日撮影)

人がいるということからはかると、日本という国の水準はいかばかりぞやと。つまり、アメリカ人は、この種子島の人々との交流を通じて日本を発見した。オンボロ貨物船に乗った命知らずのあらくれ乗組員を種子島の人々はこれほどもてなした、これこそ人間の最も本源にあるところの素朴で皮膚的なグラス・ルーツ(草の根)のコミユニケーション、本来の意味での「草の根交流」だと思ふのです。日米関係が大きな川だとすれば、その源流、水がチロロチロ流れているところにカシミア号事件というものがあるということを感じますね。

航海術や船も貧弱だった幕末から明治の頃の航海は大変危険を伴っていたことはまちがいないように、カシミア号の様な事件は全国に幾つか見えますが、明治22年の青森(津軽車力村)に漂着したアメリカの帆船チースブロー号事件も厳しい海難の一つですね。やはり同じように石油を積んでサンフランシスコからやって来るのです。そして一旦、荷を下ろして函館に回航する時に津軽の荒い冬の海の浅瀬に乗りあげて座礁するわけです。種子島と違って大変寒いので救助した乗組員を地元

の方が裸になって暖め、命を救ったという。

確かに、このような事件は沢山あります。しかし、種子島では日米戦争の最中も紀徳祭を続けて来た。海の上は波立っても、底の方では戦争を超えた人間愛がしっかりと根づいている。縦糸としてゆるぎのない太いものをもっている。それが種子島のカシミア号事件であるのですよ。ご存知のとおり、日米戦争の最終段階では沖繩、次は鹿児島、その間につらなる種子屋久・奄美はしらみつぶしに米軍が占領していくという戦略でしたね。そして、東京空襲、北九州空襲の際には、マリアナ方面から飛び立ったB29爆撃機が種子島上空を通り、帰路にはまた種子島上空に集結して、残った爆弾を島に落として身軽になってマリアナ基地に帰っていたと言われています。学童疎開もあります。おそらく、沖繩を除けば、いちばん日米戦争で厳しい目にあったのは種子・屋久だったと思うんです。

古市

そのような空襲の中にあっても島の人々は「あのアメリカがこの島に爆弾を落とすのは何かの間違いだ」と言うのですよね。

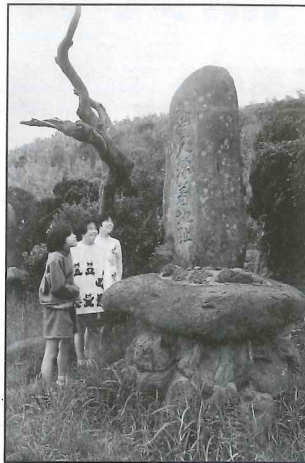
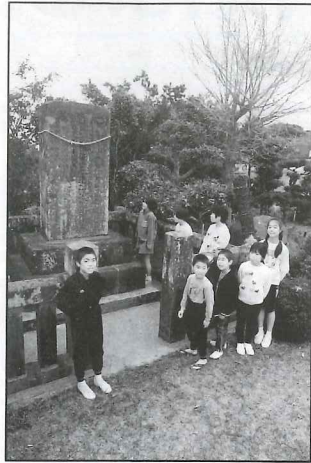
大園

ああいう時代でも、敵国語で掘り込まれた紀徳碑を守り、顕彰しつづけたというのは、当時、この事件に感動し、種子島への謝礼金五千ドルの寄贈をアメリカ市議会に陳情したホーレス・カッターではありませんが、感動以外の何物でもありません。大変誇らしく、人類の財産とも言ふべきものとして永く語り継いでいってほしいと思います。そして「私たち郷土には昔、いい話があった」と現代から離して考えるのではなく、「我々の祖先、ほんの数世代前の先輩たちからつながっている非常に強い意識が現代にあるのだ」という意識が大切です。このことが、これからの日米関係を構築するための何よりの教訓になると思うのです。

古市

カシミア号が残した教訓というのは当時の人々だけではなくて、戦時下、そして今の皆さんにも生きつづけておりますし、その線はさらに伸びていってほしいものです。カシミア号事件から百十周年の今年、この大事な1995年、鹿児島に焦点が当てられたというのも必然だと思います。また、榎本市長さんが熱望しておられるよ

▼伊関小学校正門近くに建立された紀徳碑(左)と、
浜脇海岸の「米国人漂着地跡」の石碑(中)



▲立山の舞床浜にたつ「米国人漂着地跡」の石碑

うに、サミットの分科会を現地、種子島でやるということになると、なお素晴らしいことです。

大園

大変いい機会です。西之表そして種子島の皆さん一人ひとりがこの意識を知っていただくことが一番大事なことで、それが今度のサミットの成功のカギと言えるのではないのでしょうか。そして「百聞は一見にしかず」と言いますが、実際に伊関や立山の海岸に行き、歴史の中に立つてみることです。

古市

大園さんは実際にアメリカで取材をされたわけですが、カシミア号乗組員のご子孫の方やお知り合いになった方々の中でサミットに参加いただくことになると、どのような方々がいらつしやいますかね。

大園

昭和60年のカシミア号漂着百周年にも見えられたロバート・マシヤルさん(船長のご子孫)。カシミア号取材に協力いただいたフランク・ラビンさん(当時、メドフォード市立図書館長)、そしてジョン万次郎さんのご子孫(名古屋在住・医師)と救助したホイットフィールド船長のご子孫(NASA勤務)でしょうか。

私もアメリカ取材では、1869年にカシミア号が建造されたというメドフォードのミステイック川に行きましたが、「ここでカシミア号は進水したのですよ」と聞いて涙が出ましたね。実際に歴史の中に立つということは素晴らしいことと、大変重要な体験と思うのです。当時、地球の反対側から8百トンぐらいのオンボロ船で航海したのですから、今回サミットにお見えになる方も、ぜひ種子島の立山海岸、伊関の碑の所に立つてほしいですね。英語にもシーイング・イズ・ビリービング(seeing is believing 百聞は一見にしかず)ということわざがあります。シーイング・イズ・ビリービングは今回の種子島のキーワードだと思います。

古市

関係の方々が種子島に見えると

なると、西之表においてもこれを契機に、更に新しい線が始まるような企画もどうでしょうか。

大園

目に見えるもの、そうでなくてもよいのですが、市民の皆さんが知恵を出し合って次の半世紀につながるものを考えていただきたいと思いますね。素晴らしい線が続いているのですから。今度はそれが百年はつづくように太い綱に縫い直してほしいですね。これが今回のまとめになるでしょうか。

古市

ほんとにそうですね。

大園

だんだん、今頃になって取材当時の感動を思い出して来ましたよ。(笑い)

市政の窓

本日は、長時間にわたり貴重なお話をいただき、誠に有難うございました。

■カシミア号に関する図書■ (案内は市立図書館の高谷洋子さん)



学研児童文学シリーズ

「太平洋に架ける橋」

「太平洋のかけはし」

編集：南日本新聞社
(昭和56年発行)

著者：羽生 操
(昭和48年発行)

平成6・7年産

さとうきび品質取引始まる!!

品質・収量好成績——結集し更に増産へ

ハーベスターで能率よく進む収穫作業。さとうきびは、新鮮なまま新光糖業(株)中種子工場へ運び込まれる。



(資料1) 本市のさとうきび栽培の推移 (06/07は見込)

年 産	蔗作戸数 (戸)	栽培面積 (ha)	10a当り収量 (kg)	生産量 (t)	Brix
60/61	2,020	1,098	6,525	71,648	14.62
61/62	1,978	1,077	7,927	85,374	15.13
62/63	2,063	1,166	7,152	83,390	12.54
63/01	2,027	1,169	7,686	89,852	14.23
01/02	1,976	1,152	5,973	68,805	15.05
02/03	1,833	998	7,207	71,929	12.20
03/04	1,691	894	5,666	50,653	13.05
04/05	1,581	831	6,028	50,092	15.10
05/06	1,525	805	4,655	37,469	15.20
06/07	1,393	777	6,233	47,994	17.05

平成6・7年産(今期)さとうきびの集荷が12月9日から新光糖業(株)中種子工場が始まりました。台風災害などで最悪の結果となった前期(反収4655ト)でしたが、今期は品質、収量ともに好成績が予想されています。

さとうきびは今期から品質取引に移行しており、最低生産者価格はトン当たり20、190円(基準糖度帯13・14・3度)。品質取引が定着するまでの2か年間で目途に対策費(平均220円/トン)が新設されたことなどから農家手取額は品質取引以前を上回るものと思われま

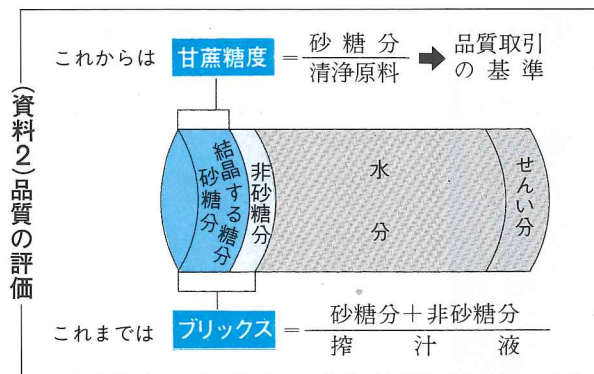
しかし、市内の栽培面積は生産者の高齢化や労働力不足などが影響して減少の一途をたどっており、市、市さとうきび生産振興会などでは、収穫作業の受委託など生産体制の整備強化を進めながら、面積拡大、品質向上に取り組んでいます。

品質、収量ともに良く栽培農家に明るさ

平成6/7年産(今期)さとうきびの集荷が12月9日から新光糖業(株)中種子工場が始まりました。操業予定はこの日から4月19日までの122日間。

本市のさとうきびの収穫面積は770ヘクタールで、生産見込数量は4万7994ト。平均収量は10ア当

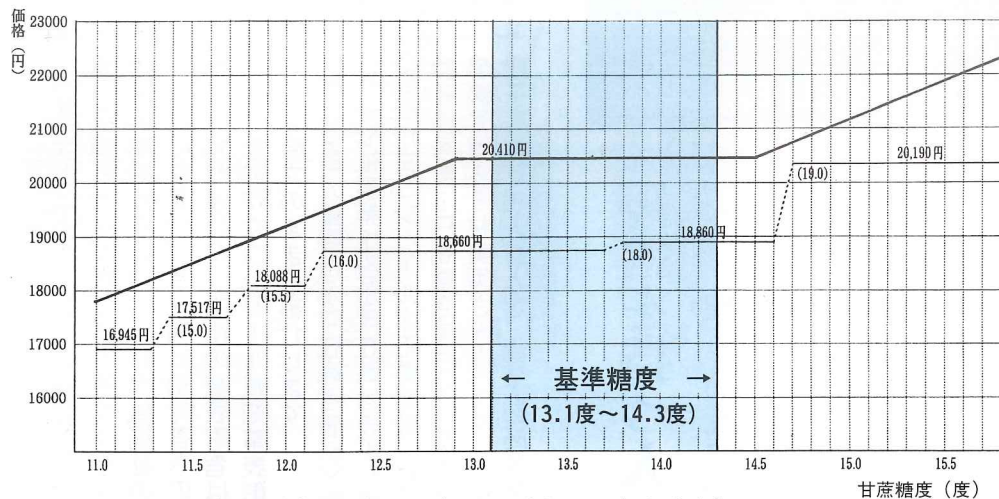
さとうきびはこれまで重量取引で行われていましたが、今期からは甘蔗糖度を基準に品質取引が行われています(資料2)。これは砂糖の内外価格差(国内の物は輸入物に比べ7〜10倍高い)の是正への対応策の一つとして昭和61年に農林水産省が重量買いから品質を加味した「品質取引」へ移行する旨の方針を打ち出し、今期から実



たり6233ト*で、ここ3か年平均5449ト*を大中に上回るものと見込まれており、栽培農家の皆さんも久しぶりに明るさを取りもどしているようです。

(資料3) 原料さとうきび価格 (農家手取額)

— 06/07年産価格
— 05/06年産価格



(注) 甘蔗糖度はこれまでのブリックスより4~5度下がります。

施されているものです。昨年はその準備として模擬品質取引も実施されました。
取引は政府が決める最低生産者価格に基づいて行われ、今期はト
ン当たり2万190円。これは基

重労働だった収穫作業も ハーベスターで一気に



収穫作業を受委託
ところで、さとうきび栽培で大きな問題となるのは、やはり収穫時の労働力不足でしょう。
最も重労働と言われる収穫作業

標準糖度13・1度~14・3度のものに適用されます。しかし、糖度が13・1度に満たない場合はこれを0・1度下回るごとに130円差し引き、逆に14・3度を超える場合は0・1度ごとに130円を加算した価格になります(資料3)。
11月1日に市内の各農場で行われたブリックス調査では平均で夏植が16・93度、春植が17・06度、株出で17・89度、全体で17・62度と過去最高の数値となっており、栽培農家の皆さんもこの好成績に大きな期待を寄せています。

高糖度の品種へ

さて、県内で作付されているさとうきびの品種は(資料4)のとおりです。県下8製糖工場における品質調査では、これまでの取引(ブリックス)でも有望だったNiF8が、甘蔗糖度においても優秀であることがわかります。最近における品種別栽培面積でもこの品種が普及し、全体に占める割合が極めて早いスピードで上昇しており、栽培農家の皆さんが品質取引に有利な品種への移行に努力されていることがうかがわれます。

ですが、最近では改良が進んだ収穫・運搬作業機の利用が多く見うけられます。昨年期において、ミニドラム脱葉機や小型脱葉搬出機、M型ハーベスターで処理された原料は4241トでした。平成3年度から始まったM型ハーベスターによる収穫作業の受委託(オペレーター付きの委託料は1ト当たり6000円)がそのうち2626トと成果を上げています。しかし、それでも全生産量約3万7千トの11・4%です。
市ではM型ハーベスターを平成6年度内には5台に増やし、受委託作業面積を拡大し、労働力不足の解消をはかっていく予定です。

きび振興へ結集

さとうきび栽培はこれまで生産農家の高齢化・兼業化をはじめ、価格低迷や収穫作業時の労働力不足、機械化の遅れ、加えて品質取引へ向けての不安など、いろいろな要因が重なり生産量や面積に著しい減少傾向が見られました(資料1)。しかし、本市のさとうきびは基幹作物として畜産や園芸、酪農などと組み合わせ合わせた複合経営の中で重要な役割をもっています。
不安で迎えた品質取引も現在、順調に進んでおり、収量、品質ともに近年にない好結果も出ています。生産者と関係機関、団体が更に力強く結集し、農家経営の大切な柱「さとうきび」を守り、ますます振興してほしいものです。

(資料4) 品種別特性と収穫面積

品種名	平均 甘蔗糖度	平均 ブリックス	収穫面積 (ha)		
			平3/4	4/5	5/6
Nco310	14.0%	18.5%	2084	953	337
NiF 3	14.5%	18.8%	355	315	165
NiF 5	14.3%	19.3%	102	84	51
NiF 8	14.8%	19.3%	—	813	1651
その他	13.9%	18.5%	—	155	100

※県下8製糖工場品質調査資料 ※収穫面積は種子島のみ

最優秀賞(知事表彰)作品紹介

障害を持つ人々に接して思うこと

種子島高等学校一年 日 高 真奈美

社会的に弱い立場にいる方々というの、見方を変えればとても強い方々なのではないか、と最近私は思う。確かに私は五体満足である。海辺を走り回ることもできれば、大声で演説することもできる。一見すれば、私の方がずっと健康だし、身体的にも強いだろう。しかし、私の感じる障害者の方々の「強さ」とは、単なる身体的なことではないのだ。精神的な強さである。自分に対する考え方や前向きに人生を生きようとする姿勢

が、私なんかよりずっとしっかりしているのだ。私が今までに出会った障害者の方々は、本当の意味で「強い」人々だったのではないかと思う。

私の父の中学時代の友人に、足の不自由な方がいらつしやる。私もつい最近まで知らなかったのだが、その方はもともと障害をもつて生まれたのではなかった。私の父は体育が得意で、特に走るのが好きだった。そんな父が二〇メートル走でどうしても勝てない相

手がいた。それが、その方だったのだ。その方は、剣道部のキャプテンも務められたほど活発な少年だったそうだ。中学時代も終わり、その方は地元の高校へ、私の父は鹿児島の高校へ進学することになった。高校生活にも慣れてきた頃、父はその方が足の病気で入院されたことを知った。父は驚きはしたものの、その方の病気について深く考えたりはしなかったという。

というのも、その方は以前同じ病気で入院されていたのだが、退院してからはみんなと同じように元気になられたからだだった。父は、また元の様にすぐに回復されるだろうと思っていたのだ。

その方の病気が完治せず、結果として車椅子での生活を強いられる、と父が知ったのは何年も経ったあとだった。父は就職し、社会人になっていた。その事実を知った時、父は驚きを通りこして呆然としてしまったそうだ。一緒に走った友人が、どうしても勝てなかった友人が、車椅子での生活を余儀なくされているなんて、信じ難い事実だったと思う。父は今でもたまに、思い出したようにつぶやくことがある。「人生何が起ころうとも不思議じゃない。一日一日を大事にしなければな。」と。その

「すこやかで心のこもった福祉社会づくり」をめざして10月28日、第43回県社会福祉大会が鹿児島市民文化ホールで開催されました。式典では、21世紀の高齢社会に対応した地域福祉の推進についての記念講演やシンポジウムにひきつづき、福祉功労者への感謝状贈呈と福祉作文コンクール表彰が行われました。本市の被表彰者は次の方々です。おめでとうございしました。なお作文コンクール県知事表彰の日高真奈美さん(種子島高1年)の作品を原文のままご紹介します。

〈民生委員児童委員永年在職者表彰〉池島孝吉さん(池田)

〈社会福祉事業施設永年在職者表彰〉原口一美さん(わかさ園園長)

〈福祉作文コンクール〉応募総数2526点(うち高校生1868点)〈

●最優秀賞：日高真奈美さん(種子島高1年)

●優秀賞：林美香さん(同1年)、戸川千草さん(同2年)、その他、佳作に

種子島高生徒10人が入選。種子島高等学校には学校奨励賞が贈られました。

和気あいあいに

熊毛地区育成会 スポーツ大会



応援団席もにぎやかに

11月1日、おだやかな日でしたが注ぐ中、第3回熊毛地区育成会スポーツ大会が「たちばな園」グラウンドでにぎやかに行われました。精薄(児)者のスポーツ振興と互いの親睦を深めるために毎年実施される本大会には「たちばな園」あかつき学園」の皆さんや1市4町の育成会の関係者など約300人が参加。



「障害をもつ方々に、ごく自然に手をさしのべてあげられる自分でありたい」と話す日高さん

方のつらい経験は、父にとってもつらい経験だったのだと思う。だとすれば、父に人生について改めて考えさせたのはその方なのだろう。そして結果的に父を勇気づけてくれたのも、その方なのではないだろうか。

私の卒業した中学校では、毎年、中学二年生で立志式を行う。式は二部形式で、第一部では自分達の決意を述べる。第二部では、郷土の先輩方が講演して下さることになっている。私が立志式を迎えた時、講演して下さったのは、何と車椅子に乗ったあの方だったのだ。ギターを抱え、自分の半生について話して下さるその方の姿は、とても大きく見えた。父から聞いていた通り、その方は自分の

人生を悲観してなどいなかった。それよりもむしろ、毎日を懸命に生き抜こうとするその方の心の姿勢のようなものを、垣間見たような気分だった。その方は、私たちにたくさんのお歌と生きることの素晴らしさを教えて下さったように思う。講演の中で、今でも印象深く覚えている話がある。「私が失ってしまったものは確かに大きなものだ。けれどこの経験を通して、私は色々なことを知った。苦しきもしたけど、悩んだりもしたけど、やはり生きていくのは素晴らしいと思う。私が得たものは、失ったものよりも大きいのかもしれない。」

私は驚きもしたが、何か勇気を奮い起こされたような気がした。今まで当然のこととししか考えていなかった、生きていくということに

ついての私の考え方が、大きく変わったように思う。

私は講演の後、その方に花束を贈る係だった。その方が、自分に花をくれた子がかつての同級生の娘であることを知ったとき、私の父にこうおっしゃったそう。「なあ、お前の娘が俺に花束をくれるなんて、巡りあわせて不思議だな。生きていくって、おもしろいことだよな」と。そのことを父から聞いた私は、いろいろなことを考えた。つまり、その方は私と父の親子二人に、生きることの大切さを教えてくれたのである。並の人では到底できないことではないだろうか。障害を持つ方々は、生きる、生きていくというあたり前のことに対して健常者よりも深く真剣に考えている。そういう意味で、健常者は障害を持つ方より「弱い」のかもしれない、と私は思うのだ。私はこのさき社会へ出てからも、このことを忘れずにいようと思う。そして、隣の人に席を譲ったりするのと同じくらい自然に、当然のこととして障害を持つ方々に手をさしのべてあげられる、そんな人間になりたいと強く思っている。

開会式ではまず、6月5日開催された第2回県ゆうあいスポーツ大会（県立鴨池陸上競技場）で優秀な成績をおさめた選手を紹介。つづいて、渡辺正樹さん（たちばな園）が選手宣誓し、施設、育成会など4つの色分けで競技を開始しました。百m走などトラック競技のほか、大玉ころがし、一輪車競争などユニークな競技も行われ、会場は終日和やかな雰囲気につつまれ、参加者は快い汗を流していました。和気あいあいの中、全員参加で盛り上がった本大会。閉会式では皆さん「来年は中種子町で」と再会を誓い合っていました。

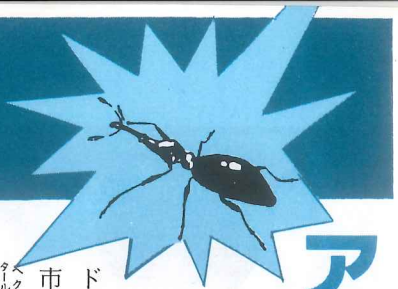
《県ゆうあい大会メダリスト紹介》

— 敬称略 —

- 原田ちよみ（青年女子走幅跳び1位）
- 深田豊二郎（壮年男子1、500m走1位、同400m走2位）
- 川頭 泉（青年男子1、500m走2位）
- 竹之内正紀（青年男子800m走2位、同400m走3位）
- 中村 勝（壮年男子立幅跳び2位）
- 中島 隆幸（少年男子1000m走3位、同200m走3位）
- 熊野 英紀（少年男子立幅跳び3位）
- 岩屋 剛（壮年男子卓球個人3位）
- 上江 至（壮年男子1000m走3位）

アリモドキ防除だより ⑪

種子島の農業と経済に深刻な被害を及ぼすサツマイモの大害虫アリモドキゾウムシをみんなの力で早期に根絶しよう!!



アリモドキ根絶へ前進

発生地区から警戒地域へ一部指定変更

県は平成6年12月2日、アリモドキゾウムシ発生地区のうち、本市の花里崎・能野地区(約270ha)を、発生地区から警戒地域に指定変更しました。

平成2年にアリモドキゾウムシの再発生を確認してから4年が経過。現在まで、市民の皆さまのご理解・ご協力と関係機関・団体・生産者が一丸となって全力で防除を行ってきた成果として、今回発生地区2183haの約1割が警戒地域に指定変更になりました。残る1910haについても早期根絶を期するよう今後も、更に強力に防除活動を推進しますので、市民皆さんの一層のご支援をお願いします。

1 発生地区での遵守事項

- ① 甘しよの栽培・放置・投棄禁止
- ② 寄主植物等(放置いも・ノアサガオ)の除去の徹底および環境整備

2 警戒地域での遵守事項

- ① 警戒地域外への移動禁止
- ② 甘しよ等の投棄・放置の禁止

今回発生地区から警戒地域に指定変更された地区、および平成5年度にアリモドキゾウムシが発生していた警戒地域(住吉の一部)では、根絶確認により来年度から

甘しよは作付けできませんが、再発生およびまん延防止に万全を期するため次の事項を遵守してください。

- ▼甘しよの作付けは、でん粉原料用だけとし、青果用・自家用・焼酎用等の作付けはしないこと。
- ▼育苗床は、変更前発生地区外に設ける。
- ▼早期に植え付け、作業早期に全量農協工場へ専用配車で出荷する。
- ▼放置いも等の除去に努め、畦畔・荒地等の雑草焼却を励行する。

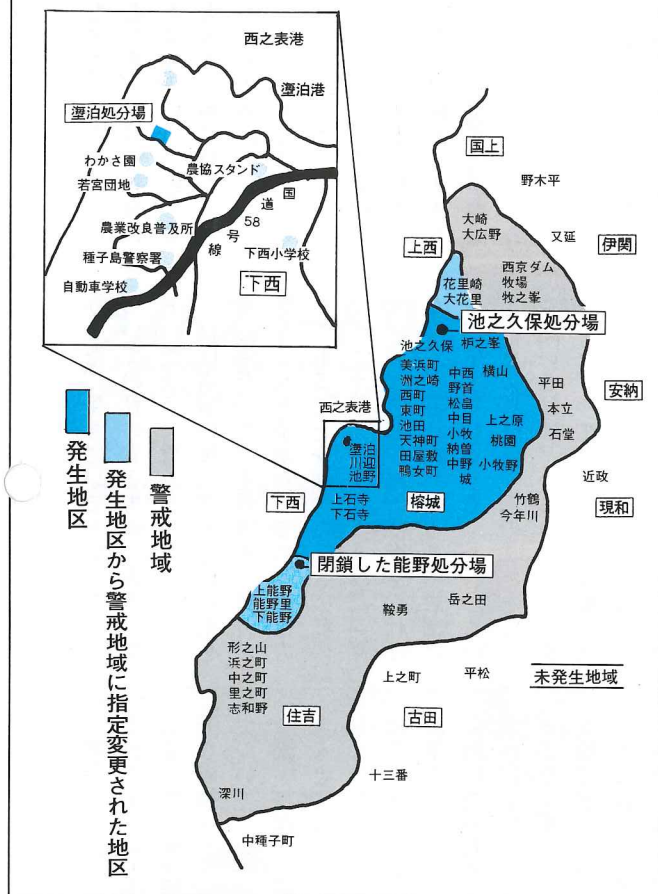
4 多発生地の根絶に全力

現在、発生地区中心部(市街地及び周辺部)において、綿密な発生地点調査を行っています。これにより発生地点を正確に特定し、寄主植物除去(除草剤散布・刈払い・焼却)と殺虫剤散布による根絶防除を反復実施しています。

3 甘しよ等処分場の閉鎖と新設

- ① 能野の処分場は閉鎖
- ② 下西壱泊に新設
- ③ 上西池之久保の処分場は従来通り

アリモドキゾウムシの発生地区と警戒地域(指定変更と処分場)



連絡・問い合わせ先:
市役所農政課 ☎②1111 内線269
熊毛支庁農林水産課 ☎②1131

史上まれにみる激戦 第23回市内一周駅伝

下西 16年ぶり 2度目の優勝

【総合成績】

- ①下西 2時間8分37秒
- ②榕城上方 〃 8分44秒
- ③榕城下方 〃 9分24秒
- ④国上 〃 9分54秒
- ⑤伊関 〃 11分11秒
- ⑥上西 〃 14分19秒
- 以下、⑦古田⑧現和⑨安納⑩住吉
⑪立山⑫中割⑬安城



上西小学校前をスタートした第1区選手13人

【区間賞】

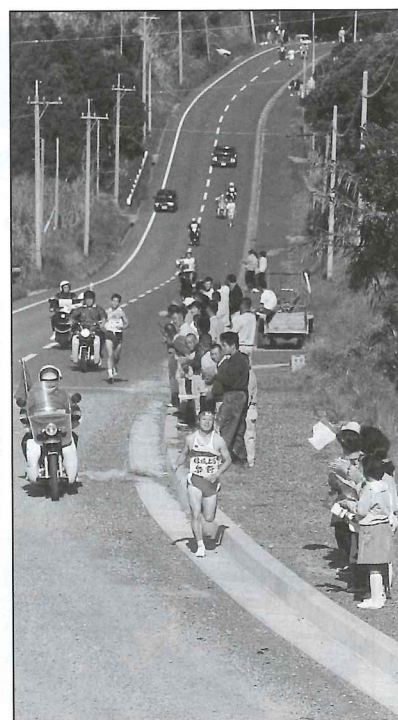
1区 1.5km (中学女子)	中園めぐみ (安納)	5分19秒
2区 3.4km (高校男子)	原口 洋志 (古田)	11分24秒
3区 1.9km (一般女子)	中村 幸子 (榕下)	6分02秒
4区 2.9km (一般男子)	川脇 健二 (下西)	8分43秒
5区 2.6km (中3男子)	長瀬 一志 (下西)	8分27秒
6区 2.6km (一般男子)	能野 惣市 (榕上)	7分36秒
7区 1.1km (小学男子)	中野 周三 (下西)	3分29秒
8区 2.0km (40代男子)	原口 晴夫 (古田)	6分27秒
9区 1.9km (中1男子)	砂坂 義弘 (榕下)	6分25秒
10区 1.0km (小学女子)	羽生 寿子 (下西)	3分23秒
11区 3.6km (高校男子)	餅田 孝志 (伊関)	10分44秒
12区 1.2km (小学女子)	中川 恵美 (下西)	4分19秒
13区 2.9km (一般男子)	美坂 一彦 (国上)	10分37秒
14区 1.0km (一般女子)	貴島美紀子 (榕下)	3分16秒
15区 1.3km (中学女子)	長田真実代 (榕上)	4分47秒
16区 3.8km (一般男子)	伊東 鉄志 (榕上)	11分41秒
17区 1.6km (中2男子)	岩切 浩一 (榕下)	4分01秒
18区 1.0km (小学男子)	迫田 怜也 (榕上)	3分26秒

第23回市内一周駅伝競走大会が11月27日にAコースで行われ、下西が昭和53年(第7回大会)以来16年ぶり、2度目の優勝を果たしました(主催:市・市教育委員会、後援:南日本新聞社、協賛:NTT種子島営業所)。

上西小学校前をスタートし、北回りに7つの校区を駆け抜ける18区間、37・3kmのコースに13チーム、総勢234人の健脚たちが出場。

華の1区で安納、2区で立山、3区では古田がトップを奪うという各チーム入り乱れての前半戦を越えて4区で首位に躍り出たのが下西。その後は独走、かと思われましたが、終盤、榕城上方、下方、そして国上が迫りすぎ、再び乱

戦模様。13区から最終区までを榕城上方の6選手が区間1位、2位の記録を連ねて5位から一気に2位に浮上。こうして勝負はゴールの市営グラウンドに持ち込まれるという大会史上まれにみる白熱戦になりましたが、最後まで厳しい追い込みを見せた榕城上方を約



伊関柳原の直線コースを力走する選手たち



後方に迫る榕城上方を振り切りゴールインする下西の三宅勇紀選手

40m差で振り切つて下西がトップでゴールイン。その後、次々にゴールする各チームのアンカーに待ちわびた観衆から大きな拍手が沸き起っていました。

なお、躍進賞には、クラス別に下西、上西、立山が選ばれ、区間賞は次の皆さんに贈られました。



連日にぎわった鉄砲村バザール会場



鉄砲伝来450周年を記念して平成5年から始まった種子島鉄砲村にぎわいバザールが11月19日と20日、種子島公設地方卸売市場を会場に盛大に開催されました。

今回は「海洋文化との接点、行ってみたいふれあい物産交流」をテーマに企画を一新、農林水産商工の業種が勢揃いして、スケールの大きな産業祭になりました。また、生産者と購買者とのふれあいの場としてツノマキや黒砂糖作りなど実演コーナーを数多く創設して充実。

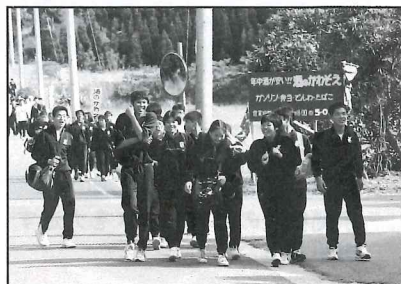
当日は秋晴れにさそわれて親子連れなど多くの市民が詰めかけ、お目当てのコーナーへ。特設舞台で繰りひろげられた郷土芸能発表や歌謡ショー、コピー長瀬剛ライブ、テレビキャラクターショーなど人気を集めて、2日間の入場者数は約1万6千人にのびりました。

そのような中で、特に新しい取り組みとして注目されたのはポルトガル物産の展示・販売コーナーの実現、そして市経済研究懇談会（小倉道夫会長・14人）が招へいし大いに会場を沸かせた日向ひよっとこ踊りでした。これらもまた、地域振興と活性化をめざすにぎわいバザールの新たな展開を予感させるものとして反響を呼び十分に成果を収めた事業の一つでした。バザールに参加された皆さん、ほんとうにご苦労様でした。

ラストスパート'94

▼種子高24キロ遠行

種子島高校（細山田寛校長・358人）全生徒による遠行が11月1日行われました。コースは種子高をスタート・ゴールに安納、現和を歩き通す24キロ。午前9時にクラス毎に出発。安納で昼食をとり、田之脇からは体力に応じたスピードで歩いたり走ったりして、到着は午後2時、遅い生徒で4時半頃。年末恒例の行事は、生徒間の友情、そして生徒と先生のきずなを更に深めたようです。



▲住吉神社拝殿を再建

平成5年9月の台風13号の猛威で倒壊した住吉神社拝殿が再建され、10月23日、校区民総参加のもと落成式が盛大に行われました。拝殿は約700万円で復元。落成式は願成就祭りに合わせて行われ、神社境内では神事のあと、源太郎踊りが奉納されました。再建された住吉神社はこれからも心の寄りどころとして、区民を、そして島民を末永く見守ってくれることでしょう。



▲おもちゃナンキン

中割千段峯の奈尾正友さん（市役所職員）がミニかぼちゃ（おもちゃナンキン）を栽培。株ごとに形や色が異なる10種類ほどのミニかぼちゃが実りました。10月4日、市役所玄関口に展示したところ、施設見学で訪れた現和小2・3年生が興味深げにのぞいたり、さわったり。残念ながら、このかわいいミニかぼちゃは鑑賞用で、にくくて固いらしい。



超満員のイベント会場

大産業祭に一新

にぎわった

鉄砲村バザール

ポルトガル民俗衣装で会場案内にあたった皆さん



日向ひょっこり踊り



人気の実演コーナー



コルクを使ったポルトガル製品も展示即売



農産物などの即売コーナー



ラストスパート'94



▼秋の戦没者追悼式

平成6年度西之表市戦没者追悼式が11月5日、わかさ公園内の慰霊塔前でしめやかに行われました。式場には、遺族をはじめ市民多数が参列。先の大戦で散華された937柱の英霊に対する黙とうのあと、榎本市長や宮里熊毛支庁長らが追悼のことばを述べ、つづいて遺族代表者らが献華を行い御霊を慰めました。



第17回 西之表市小中学校合同音楽祭



▲小中学校合同音楽祭

第17回市小中合同音楽祭が11月17日市民会館ホールで行われました。市内の小学校12校、中学校6校が2曲ずつを披露して音楽で交流。1曲目に合唱、2曲目はリズムに合わせて、手拍子や体をスイングさせて楽しく表現するなど、学校ごとに工夫をこらして発表していました。



▲税を知る週間

11月11日から17日までの「税を知る週間」に市内では、税の意義や役割を正しく認識していただくよう街頭広報や小中学生の書道展が行われました。11日には、羽生暁絵さんらフレッシュ種子島の皆さんや税務署職員らが西之表港でパンフレットを配布し、税務行政への理解と協力をお願いしました。

命と地域は自ら守ろう!!

みずか

自主防災組織整備が急務



▲「事前に十分な備えを!!」と語る
鹿児島地方気象台の前田予報課長

自主防災組織を整備し、災害時に市民が安全で確実に避難できる体制を確立する必要があるとして10月25日、本市では初めて、平成6年度自主防災組織リーダー養成研修会が市民会館で行われました。災害時の人的被害防止に自主防災組織の役割りは大きいと言われますが、県内の組織率は18%と全国平均43・1%を大きく下回っているのが現状。今回の研修会は県が地域防災の体制を充実・強化するため、緊急防災対策事業の一環として県内8地区で開催したものです。研修会では、鹿児島地方気象台の前田 一郎予報課長が大雨と台風

の特性について講演し、正確な情報収集と迅速な対応の大切さを強調。また、駒澤大学の山本康正教授も型通りの防災活動ではなく、実際の災害に生かせる知識を身につけ、地域ごとの防災体制の整備を急ぐことが重要と語りました。平成5年8月6日の集中豪雨による鹿児島市の大災害など記憶に新しく、県内ではここ数年、想像を絶する災害が多発しています。聴講した地域防災関係者ら約300人は、行政の取り組みだけでなく、自分たちの命、地域は自ら守ろうという自主防災の重要性を再認識していました。

ラストスパート'94

▼県営畑総(安城地区)起工式

平成6年度県営緊急畑地帯総合整備事業(安城地区)の起工式が11月24日、現地(安城土戸)で行われました。土戸団地9ha、安川団地18haの整地工や幹線道路950m、支線道路3.440mなどの整備を予定し、完成は平成9年。事業費は4億1千万円。生産性や品質の向上により、畑作経営の安定強化をはかります。



▲わらび苑を慰問

現和下之町青壮年会(榎本勝会長・18人)が11月21日、老人保健施設わらび苑を慰問し、踊りを披露して入苑者に楽しんでもらいました。集落内清掃や十五夜の綱練りなど地域活動を進める同青壮年会ですが、慰問は初めて。わらび苑の方でも青年の踊りは珍しく、「若っかしの踊りも良かけりやー」と評判でした。



▲英語弁論暗唱大会

市内各中学校の代表生徒による英語弁論暗唱大会が11月24日、市民会館で行われました。特に緊張した様子もなく、身振り手振りに小道具を加えて楽しく英会話を交わす発表も。リラックスしたムードの中、ユーモラスで、しかも実のある第11回大会になりました。

▼力相撲に一戦一戦、大きな拍手と歓声が沸き起った



種子島相撲大会

小中学の部が連勝

西門博文選手

二年連続4回目の

優勝

第28回種子島相撲大会が11月13日、中種子町営相撲場で盛大に行われました。本大会には各市町から小学生、中学生、一般力士それぞれ15人が出場。

本市は団体戦小学生の部で中・南を圧勝。中学生の部も中種子町戦で前半苦戦をしいられたものの後半で逆転、優勝を手に入れました。一般の部は南種子町を14対1で敗り、その勢いで中種子町戦に臨みましたが6対9で惜しくも破れ、2位に甘んじました。

続いて行われた個人戦では、7部門のうち3部門で西之表勢が3位までを独占。特に一般の部では西門博文選手（29歳・岳之田）が二年連続4回目の優勝を果たすなど西之表勢の活躍が光りました。

〈団体の部成績〉

優勝		準優勝		三位	
小学生の部	西之表市	中種子町	南種子町	南種子町	
中学生の部	西之表市	中種子町	南種子町	南種子町	
一般の部	中種子町	西之表市	南種子町	南種子町	
〈個人の部成績〉（上位入賞の西之表選手）					
優勝		準優勝		三位	
小学生4年	南	中目伸也	古川篤志	古川篤志	
5年	中	中目伸也	中目龍也	中目龍也	
6年	濱上雄太	山下祐介	中目龍也	中目龍也	
中学生1年	南	柳田耕太	柳田耕太	柳田耕太	
2年	阿世知俊晶	橋口生太	橋口生太	橋口生太	
3年	小松 伸	宮下博樹	深田 健	深田 健	
一般	西門博文	折戸和広	牧瀬哲郎	牧瀬哲郎	

ラストスパート'94

▼童謡コンサート

池端ミチ子さんによる童謡コンサートが11月27日、市民会館ホールで行われました（主催：いちご会）。

曲目は、里の秋、赤とんぼ、待ちぼうけなどおなじみのナンバーに会場を埋めた親子連れはうっとり聴き入っていました。



熊毛地区高校音楽祭



▲熊毛地区高校音楽祭

平成6年度熊毛地区高等学校音楽祭が11月25日、市民会館ホールで開催されました。演奏したのは地区内の5つの高校で吹奏楽などを学ぶ生徒の皆さん。合唱やピアノ独奏の発表も立派。このあと九州出身の音楽活動家による特別演奏も行われ、素晴らしいプロの技に浸っていました。



▲種子屋久法人会社団化10周年

（社）種子屋久法人会（里村安朗会長・会員数340事業所）は11月24日、社団化10周年記念式典を市内ホテルで開催しました。同会が民法上の公益法人として認可されたのは昭和59年11月6日。自主申告・納税の実践と推進から経営の合理化・近代化を目指しており、10周年を契機に新たな決意で一層の団結と同会の限りない発展を誓っていました。



現和西侯のヤートセー(10/28)



第1回現和校区文化祭(10/23)



第2回安城校区文化祭(10/23)



第6回国上校区文化祭(11/23)

郷土芸能の宝庫「種子島」 伝統文化一色に染まる

▶種子島大踊

—現和武部—

現和武部の大踊は「かけうち大鼓」とも称され太鼓踊の一種。大踊は鎌倉から伝わったとか、室町時代に種子島公が京都で見た踊りを家来たちに習得させたものである、とか言われている。10月28日、風本神社大祭に奉納。(43年県指定文化財、49年国選定文化財)



◀ヨンシー踊り

—現和庄司浦—

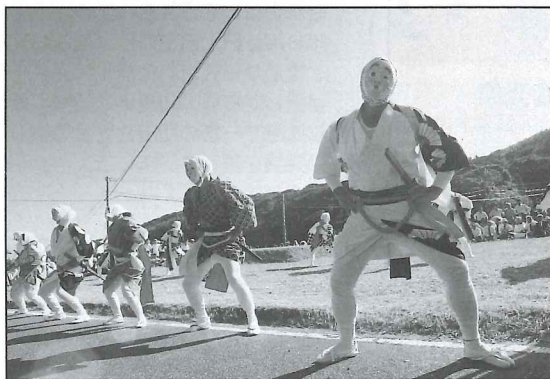
この踊りは、琉球王府時代、首里城建築の際の木材切り出しの様子を表現した木遣り歌「国頭バクイ」が種子島に伝わったと言われる。踊りは1番と2番に分かれており、1番は80cmの竹に色紙で作った房をつけ、歌に合わせて振って踊る。2番は、よき・のこぎり・米びつ・めしかい等を持って踊る。10月28日、風本大祭に奉納。



◀虚無僧踊り

—現和上之町—

明治35年頃に伊集院から現和上之町に伝わったと言われる踊りで、10月23日の第1回現和校区文化祭で14年ぶりに復活。28日の風本神社の大祭でも披露された。虚無僧(こむそう)と棒使いが相対し、虚無僧は扇子・尺八・小太刀と次々に採物を変え最後に尺八と小太刀を両手に持って棒と打ち合う。虚無僧の編笠は、踊りのためにわざわざ育てられた麦をお年寄りが編んだもの。



▶兵児踊り

—現和西侯—

明治時代に宮崎から伝わった踊り。ひょっとこ面とユーモラスな所作が独特。兵児踊りは別名トンキャツキヤーとも言う。11年ぶりに復活し、10月28日の風本神社大祭に披露。

▶風本大祭に旅姿で見事な踊りを披露する延時キヨさん(83歳・浅川)





風本神社大祭を見学する現和小児童(10/28)



種子島大踊(10/28)



安納神社に示現流くずし棒おどりを奉納した安納校区の児童

(10/22)

タバコも小道具? ユーモラスな兵児踊り



▶ なぎなた踊り

— 国上湊 —

江戸時代に流行した踊りと言われ、それが種子島に定着。男は刀、女はなぎなたを持って仇討ちの立ちまわりをする。一番が団七口説(くどき)、2番が上杉源次郎口説。2番は国上湊だけに伝承されている。

11月23日、第6回国上校区文化祭で8年ぶりに披露された。



▶ 示現流くずし棒おどり

— 安納 —

明治初期に加治木住人である石工石野政蔵氏によって伝えられ示現流の流れを汲むものと言われている。毎年春秋に神社境内において五穀豊穡を祈願して奉納されて今日に受け継がれている。10月22日安納神社、10月30日は軍場神社に奉納された。(49年市指定文化財)



◀ 源太郎踊

— 住吉 —

室町時代から江戸時代初期にかけて種子島に伝わり、別系統の太鼓踊りの影響も受けて郷土化した

ものと言われている。歌詞は七節からなり、それに伴い隊形・楽拍子等それぞれ異なった多様な変化・趣きをもった踊り。10月23日に住吉神社大祭に奉納。(39年市指定文化財)

◀ 棒踊り(川内平佐棒)

— 安城 —

大正時代に川内から伝わったと言われているこの踊りは安城大野で伝承されて来た。昭和47年からは安城中の生徒(17人)に受け継がれ、区民が集う校区運動会や願成就祭りで披露されてきている。10月23日の第2回安城校区文化祭では、小学生が郷土芸能の「なぎなた踊り(団七口説)」をまた、中学生がこの「棒踊り」を発表し区民の喝采をあげた。



種子島は古来、海を渡って伝えられた数多くの貴重な文化が根付き育った民俗芸能豊かな島と言われています。北の芸能、南の芸能が入り混り、中には種子島化して、独特の優雅な、哀調を持つ優れた民謡や芸能に成長し、伝承されています。その種子島が豊年満作の平成6年秋、願成就を祝って伝承芸能が市内各地域で奉納されました。その一部をご紹介します。



▲左から：平野奈津美さん(国上小2年)・持田 香さん(伊関小2年)
持田純平くん(安納双葉保, 4歳)・持田 唯さん(同, 6歳)

みんなの広場

▼左から：戸川義人さん(軍場)
山口昭嗣さん(軍場)



この人にSPOT No.58

アコースティックギター弾き語りを初演

曾 木 邦 治さん (31歳・松島)



ギターの弾き語りによる「アコースティック・ナイト」コンサートを11月13日、市内のミュージック・ボックスで初演。およそ2時間、清らかな歌声が、集まった20人ほどのフォークファンを酔わせた。

種子島高校卒業して東京の音楽学校へ。名古屋で3年間、車の部品製造工場で働いたあと帰島。今年5月から住吉形之山で伯父(おじ)さんが営む種子島焼の窯元に弟子入りし、修業を積んでいる。

土を掘り、ふるいにかけ、練り上げて素地を作り、轆轤(ろくろ)を回し、焼きを入れて仕上げる。「3か月にわたるこのリズムが私に合っているのかも」。

ギターを手にした中学2年の頃はエレキギターでハードロックが中心。「オリジナリティーが大切なところが音楽と焼物の共通点かな」と語る。この日の演奏のようにジャンルにこだわらず、豊かな創作活動を目指してほしい。もっか独身中。

人口の動き (住民基本台帳)

平成6年12月1日現在(前年比)

総 数……20,354人 (+27)

男 …… 9,746人 (+10)

女 ……10,608人 (+17)

世 帯 数…… 7,894世帯 (+1)

市の面積…… 205.70km²

出生児	野崎友和	日高翔輝	小園穂穂	中村将憲	上妻加恵	浦添祐紀	大原実季	川原淳子	内永千晶	高尾綾香	吉海朱音	平田涼太	中村有香	平田和弥	中村之弥	長田北斗	前田明奈	小川智奈	牧瀬加奈
保護者	和志	洋一郎	英雄	貞憲	昭己	洋文	明浩	子	三子	浩三	保三	和英	和弥	良之	誠二	光明	晃久	正人	弘人
住所	池野	朝日ヶ丘	大平	東町	鞍馬	松島	野首	川脇	松島	東島	納曽	寺門	番屋	庄浦	壺泊	池野	上石寺	城	城

うぶごえ
おめでとう



氏名	古川清	川畑アキ	鎌田幸雄	増元貞一	多々崎直道	田頭キヌ	村山トヨ	島岡アサエ	上妻ワ子	里中藤吉	牧内奥蔵	中島兼治	山田保	古市サヨ	濱田樸	北山三好	荒河又雄	牧瀬テルコ	熊澤信子	西門スエ	宇辰
年齢	83歳	84歳	77歳	87歳	79歳	58歳	87歳	78歳	76歳	87歳	67歳	59歳	45歳	78歳	87歳	75歳	75歳	67歳	71歳	78歳	91歳
住所	川脇	桜園	浦田	池之久保	川	壺泊	国上中目	小牧	鴨女	浅川	浅園	桜園	東川	浦田	松島	松島	川	壺泊	現和之下町	西町	西町

うぶごえ・ごめいふくは
11月中の受け付け分です。
(敬称略)

ごめいふくを
お祈りします

高額療養費制度ってどんなもの？

疑問 質問

●今月は、保険衛生課がお答えします。

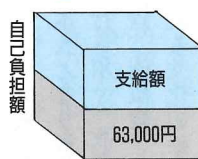
★病気やケガでかかる医療費の自己負担分が一定額を超えたとき、その超えた分は、あとで申請すれば、払い戻しがうけられる制度のことです。平成5年度は2,113人の被保険者（国民健康保険の加入者）の方が利用され、その払い戻し額（高額療養費）は1億4,658万円にのぼっています。



高額の自己負担をした人の医療費が
軽くなる制度なんだよ。

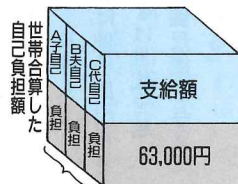
1 63,000円を超える自己負担があったとき

同じ被保険者が、同じ月内に、同じ医療機関に対して支払う自己負担額が63,000円（住民税非課税世帯は35,400円）を超えた場合、その超える額が支給されます。



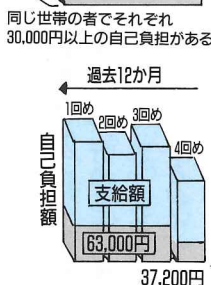
2 世帯合算ができる場合

同じ世帯で、同じ月内に、30,000円（住民税非課税世帯は21,000円）以上の自己負担額を支払う人が複数いる場合、その合算額が63,000円（住民税非課税世帯は35,400円）を超えた場合、その超える額が支給されます。



3 多数該当の場合の特例

同じ世帯で、過去12か月の間に、63,000円（住民税非課税世帯は35,400円）を超える自己負担額がすでに3回あり、高額医療費を支給されている場合は、まだ12か月内であれば4回めからは37,200円（住民税非課税世帯は24,600円）を超える額が支給されます。



4 厚生大臣が定める特定疾病の場合

「人工透析を必要とする慢性腎不全」などの特定の病気で、厚生大臣が指定したものについては、自己負担額は1か月に1万円までとなります。対象者は、あらかじめ国保担当窓口で「特定疾病療養受療証」の交付をうけてください。

◆注意しましょう

- 1つの医療機関ごとに計算します。
- 月の1日から末日まで（暦月）ごとに、1か月として計算します。
- 同じ医療機関でも、医科と歯科は別計算です。
- 同じ医療機関でも、入院と通院は別計算です。
- 総合病院の名診療科は、それぞれ別の病院として計算します。ただし、入院している場合に歯科以外の他の科を受診したときは、一連の診療として自己負担額が計算されます。
- 入院中の食事に係る自己負担額は、この制度の対象にはなりません。
- 申請には、医療機関が発行する自己負担分の領収書が必要です。
- 詳しくは市保険衛生課国民健康保険係 ☎21111 内線226 におたずねください。



教えてください
家族の病気が重なり、高額になった医療費の支払いに困っています。市に申請すると、医療費の自己負担分の一部を払い戻してくれると聞きますが？ その制度を教えてください。

お答えします

医療費がかさんで支払いが大変

!! という声を耳にします。おたずねの方も、このような事情だとお察しいたします。
国民健康保険では、病気やケガでかかる医療費の自己負担分が一定額を超えたとき、その超えた分をあとで申請すれば払い戻しがうけられる制度「高額療養費制度」を行っています。ご質問には、

この制度がお役に立てるのではないのでしょうか。
この制度では、同じ人が、同じ月内に、同じ医療機関で医療を受け、自己負担額が6万3,000円（住民税非課税世帯は3万5,400円）を超えたとき、あとで申請すると、その超えた分が国民健康保険から支給されます。

ただし、医療費の合算の方法など、状況によって異なりますので左の図と説明を参考にしながら、おわかりにならない点は、市保険衛生課国民健康保険係におたずねください。
なお、高額療養費の支給申請から実際に支払いが行われるまで2か月ほどかかります。

リレー ふるさを想う 53

肌黒い大岩を洗う清流のように、種子島を洗う黒潮の海。海は太古から人類に多くの恵みを与え、国内外の文明・文化の運び手だった。島に縄文、弥生の文明が刻まれ、太宰府からの遣隋・遣唐使の南ルートや、京都・堺からのルソン貿易ルートの寄港地を占めた影響は大きく未だに鹿児島とは異文化圏という感が拭えない。この故郷の重量感は、私共出身者に誇りと幸せを絶え間なく与えてくれる。

紀元前12世紀、中国の周時代の行政区画として「郷」は1万2、500戸（最小単位は里で25戸）の制度があったが、種子島という郷里も同サイズである。同一文化の一族を纏め易いサイズなのだろう。同郷者は、同じ文化・物の見方や価値感…を共有する。ガジュマル

と言えは春夏秋冬、涼を求む夏の日蔭から台風に大きく揺れる姿まで同郷者は瞬時に思い出す。

文化の同質性が高い程、身近かな同郷者である。西洋に在れば西洋人よりは東洋人、東洋人よりは日本人となり最後は種子島出身者に行き着く。故郷とは世代を越え、視点、価値観、評価尺度を与えてくれる文化の船である。

私は幸い種子島高の同級生（西町）出身と結婚、職場以外は島弁で話している。十余年前家族を伴い英国に留学、ロンドン郊外グリニッチに滞在した。ある日シェークスピアの故郷を訪ねたドライブの帰途、妻曰く「イギリスも広いネ、あとロンドンまでどれ位？」私答えて「日本の半分さ、山が少ないからアメリカ並みに広く見えるだけ、

ウーン、あと40マイル位かな」。

「アメリカが広いと言っても私の頭の中では種子島の方が広い……40マイルって西之表からどれ位？」。

西之表から野間に行つて帰る位かな」。

「あつ、そう、じゃ近いネ」。

故郷は心の中では相対的に比重が大きく、行動基準の感覚的物差し……そう思った次第である。

余談となるがイギリス在住の間、この市政便りが岩河信時超先輩（福岡市）から届けられ、西町の母からノックリ、モハミの干物が到着。異郷で温もりある故郷文化、まるで「ロンドン市西町」に住む錯覚を感じた。最近では防衛庁構内の勤務が多くなったが、洲之崎の友人から、アラ、トッピー、キダカ、ザコ等々、島の食文化の中に埋もれている。

平成3年秋、護衛隊司令で艦1隻を率いて西之表に接岸した。やっと墓参ができるという忙しさであり、出港後部下が「司令、選挙に出れば当選ですネ」と冗談を飛ばすほど温い歓迎であった。その時、誠に勝手であるが故郷は丁度この程度の発展で良い、人間砂漠の都会ナイズは困ると思った。

離郷者には、故郷は成功の好機がないほど保守的であつても人情味のある方が良い。反面在郷の若者にとっては未来に輝く希望の星でなくてはならない。この意味において、現市長の「人情豊かな明るく力強いふるさと創造」という地方行政の理念には全く同感である。しかし、市民の文明（生活）レベルと人情豊かな文化レベルを高める施策は相反する要素が多く、市長の指導力のみに頼るのは酷である。市民の理解と進取な協力、離郷者の応援が不可欠である。為政者と市民は、親が子に尽して子が親孝行を為すという相関関係と同様であるべきと考える。私も50歳に達し社会の原動力となるのは勿論、微力ながらも全知全能を以つて社会や故郷に何かを還元すべき年代となった。国際関係の構図が遷り重工業経済から脱却すべき転回点にあつて、離島という条件を克服しバランスのとれた発展を遂



●鉄砲伝来450周年サグレス号（東京・晴海）艦上レセプションのため妻と合流して
— 93.9.25 —

防衛庁統合幕僚会議事務局勤務：企画調整官

ちか お
上田 愛生さん(50歳)

（現住所：〒211 神奈川県川崎市中原区
木月祇園町277-2-103
電話：044-435-2567

出身地：住吉

略歴：

- S38.3 種子島高校卒
- S42.3 防衛大学校卒 海上自衛隊
- S56.1 米国留学（機雷戦）
- S57.10 英国留学（英海軍大学）
- H3.3 第39護衛隊司令（佐世保）
- H4.3 海上幕僚監部運用課長
- H5.12 現職

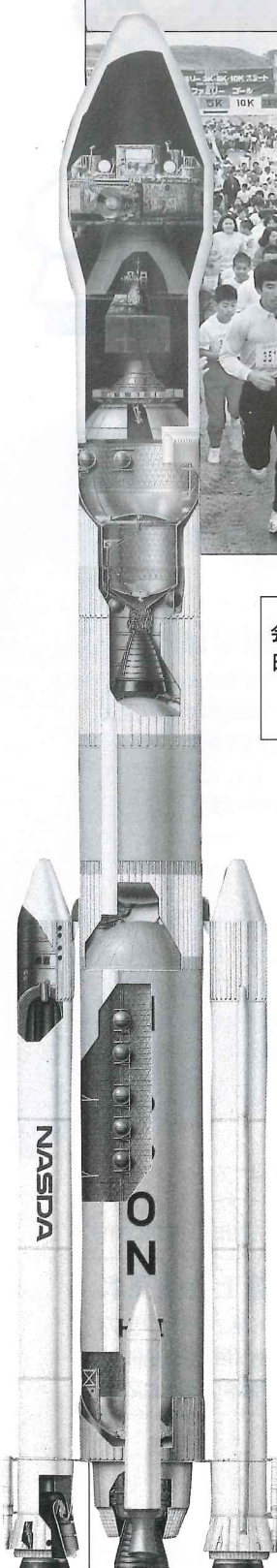
たねがしまロケットマラソン

●10km スターター
【女性宇宙飛行士】 向井千秋さん

9th TANEGASHIMA
ROCKET MARATHON

めざせ宇宙、かけろ地球人。

●本大会は島内・全国から2300人余りのアスリートが参加する県内有数のマラソン大会です。



開会式 3月18日(土)

会場：南種子町農業者トレーニングセンター
日時：平成7年3月18日(土)
(受付) 午後3時～午後5時半
(式典) 午後4時～午後5時

スタート 3月19日(日)

●フルマラソン…午前9:00—中種子町陸上競技場
●10キロ……………10:00
●5キロ……………10:10—種子島
●2キロファミリー…11:00—宇宙センター
●3キロ……………11:10

(大会期日) 平成7年3月19日(日)

(会場) 種子島宇宙センター

(参加料) 島内者3,000円、島外者3,000円
ファミリー券(親子3人まで、小学生1人含む)5,000円
中学生2,000円、小学生以下1,500円

(申込締切) 2月10日(金)—当日消印有効—

(申込方法)

●島内の方…〈申込先〉 たねがしまロケットマラソン大会事務局

☎891-37 南種子町中之上2793-1

☎09972-6-1111(南種子町役場内)

〈振込先〉 鹿児島相互信用金庫種子島支店

普通口座 996321

たねがしまロケットマラソン代表 柳田長谷男

●島外の方…〈申込先〉 近畿日本ツーリスト鹿児島支店

☎892 鹿児島市西千石町17-27

☎0992-23-3205

〈振込先〉 一郵便振替にてお願いします—

名称：近畿日本ツーリスト(株)鹿児島支店

口座番号：鹿児島 5-25562

H-II 3号機

全長51.1m 重さ約280トン (静止気象衛星GMS-5搭載)

1995年2月1日(水)午後5時10分打上げ予定

予備日：2月2日～2月28日 打上げ時間帯：17:10～19:30

げるのは、大変な事業である。
盛者必衰、平家物語はその原因
を「盛者の奢り」にあると説く。
歴史上長寿を享受した国家は時代
の変化を察知し、今日の成功の因

であつても明日には足枷に変わる
それらを夜のうちにはずしてしま
う、それも己の体力のあるうちに
自己改革のできた国と分析する歴
史学者がいる。組織体の大小に関係

なく適用される教訓のように思ふ。
「人情豊かな明るく力強いふる
さとの創造」、旗幟鮮明にして一
致協力、我がふるさとの進展を祈
りたい。

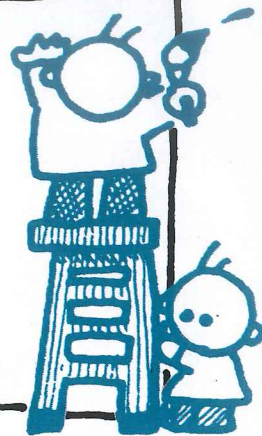
今回の「ふるさとを想う」は、
栃木県石橋町にお住まいの松本敏
輝さん(54歳・上西池之久保出身)
にご登場いただく予定です。
お楽しみに。



主催者
市生涯学習推進会議
市教育委員会

生涯学習市民フェアは、市民が一堂に会し、この一年をふりかえり、今後の生涯学習のあり方を展望するとともに、生涯学習推進・発展に寄与しようとするものである。

平成年度
西之表市生涯学習市民フェア
開催趣旨
うるおいのある地域社会を創造し、生きがいに満ち、心豊かな人生をおくるため、生涯学習の必要性が叫ばれている。



大会テーマ「学び、いまさわやかに心ときめく」

市民フェア

日時 2月11日(祝日)
午前9時～午後4時

会場 市民会館・入場無料

奄美民謡特別公演
島唄第一人者
坪山豊唄者



唄う織り姫
当原ミツヨ唄者



文化講演
落語家
三遊亭好楽師匠



8:30～16:00 展示部門

- 市民講座生作品 ●婦人講座生作品
- 青少年ホーム講座生作品 ●高齢者学級生作品
- 生活改善グループ展示 ●食生活改善グループ展示
- 生涯学習講座等活動案内 ●ニュースポーツの実演・紹介
- パソコン操作体験コーナー ●特色ある学校教育活動紹介コーナー

オープニング 9:00～

- 榕城小学校鉄砲太鼓隊演奏
- 生涯学習この1年(スライド上映)

9:50～学習発表

- おゆうぎ ●合唱 ●体験発表 ●大極拳
- 着物の着付け ●南京たますだれ ●その他

実演・物産即売 10:55～

- 農作物展示即売 ●海産物展示即売
- 乳製品即売 ●花卉園芸即売 ●たちばな園コーナー
- その他、にぎりめし、わた菓子、うどん等コーナー
- 実演(すり身入りパンプキン実演・からいも餅作り・つのまき作り)

11:00～郷土芸能発表

- どすこい(洲崎老人クラブ)
- たんばら踊り(伊関校区子供会)
- 虚無僧踊り(現和上之町)

アトラクション 11:40～

- 寿大学民謡部 ●食生活改善グループ
- 市地婦連 ●市母子寡婦福祉協議会

13:00～文化講演会

奄美民謡公演 14:00～15:40

航空運賃値上げ

鹿児島・種子島間 9,230円に

日本エアコミューター(JAC、
本社は始良郡溝辺町)は12月14日
から航空運賃を改定・値上げしま
した。

今回の改正は、コミューター航
空や国内旅客船など5業種の事業
者が申請していた運賃値上げに対
して運輸省が11月29日付で認可し
たことをうけて実施されたものです。
種子島、屋久島に関する改正の
内容は次のとおりです。

●日本エアコミューター運賃改定額

平成6年12月14日から実施

路 線	改定前 → 改定後
鹿児島ー種子島	6,400円 → 9,230円
鹿児島ー屋久島	7,230円 → 10,420円
大 阪ー種子島	21,580円 → 26,420円

※種子島・屋久島関係のみ掲載

火災の通報について

市内では昨年(11月末日まで)
13件の火災が発生しました。
火災発生時の届出義務(熊毛地区

消防組合火災予防条例施行規則第

16条)および火災発見の通報義務

(消防法第24条)により、火災を

発見した場合にただちに消防署に

通報しなければなりません。消

防署が出動するに至らないで火災

を消火した場合(自然鎮火した場

合も含む)も、必ず消防署に届け

出てください。

なお、消防署に罹災証明書を求

める場合、消防署が現場を確認し

たものでなければ証明書を発行す

ることはできませんのでご注意く

ださい。

▼問い合わせ先…西之表消防署 ☎

4199

新種子島空港関連道路に大橋

橋名を募集!!

県が進める新種子島空港関連道路

路に平成7年完成予定の大橋の名
前を次の内容で募集しています。

新空港建設に係る主要地方道野

間十三番西之表線道路改良工事は

全区間の平成11年開通を目指して

進行中です。そのうち古田地区の

道路改良工事は、古田小学校から

十三番へ2.5kmのバイパスとなる山

岳道路。この間には谷にまたぐ橋

長60mの大橋が計画され、平成6

年度から2か年をかけて完成され

ます。

こうして新しく誕生する大橋の

名前を次のとおり募集しますので

ぜひご応募ください。

▼架設路線名…主要地方道(県道)

野間十三番西之表線

▼橋梁新設場所…西之表市大字古

田字降掛(くだりかけ)

▼橋の大きさ…橋長60m・幅員14m

▼応募資格…市民の皆さん

新設架橋位置図



交通事故発生状況

平成6年12月15日現在(対前年同月比)
※死者傷者とも発生場所での件数です

区 分	発生件数	死 者	傷 者
西之表市	69(-2)	1(+1)	86(+7)
中種子町	26(-13)	1(-1)	37(-10)
南種子町	16(-12)	0(±0)	18(-19)
計	111(-27)	2(±0)	141(-22)

おわびと訂正

市政の窓12月号に次の誤りがあ
りました。深くおわびして訂正し
ます。

○13頁1段目(写真説明)

誤 赤尾木生活学校

正 市地域婦人会連絡協議会

▼応募方法…官製はがきに橋名(一
枚に一点)を明記、その理由も簡
単に書き添えてください。住所・
氏名・年齢・電話番号もお忘れな
く。

▼締め切り…平成7年2月末日

▼発表…「市政の窓」で発表します。

▼応募先、問い合わせ先…西之表

市役所建設課 〒891-31 西

之表市西之表7612 ☎②11

11内線239

1995年(2月1日現在) 農業センサスへご協力を

1995年農業センサスが今年2月1日現在で実施されます。

農業センサスは、我が国の農業に関する最も基本的な統計調査で、農林水産省が5年ごとに行っており、全ての農家や農業を営む事業体を一斉に調査することから「農業の国勢調査」とも言われています。

農業は、食糧の供給、国土の保全など重要な役割を担っています。一方では、労働力の高齢化や生産性向上の立遅れなど難しい問題を抱えています。このような中で適切な農業施策を行い、農業の発展をはかることが極めて重要であり、農業センサスの結果は、国や都道府県の農業施策の基礎資料ばかりでなく、各市町村の地域振興のための基礎的な統計として活用されます。

調査結果は、課税等その他の目的に使われることはありませんので、調査票にはありのままをご記入ください。

▼問い合わせ先…市企画課統計調査係 ☎②1111内線282

法律相談所を開設

種子島調停協会が次の内容で法律相談所を開設します。民事・家事・刑事等に関する問題で困り

の方はご遠慮なくお立ち寄りいただきご相談ください。秘密は厳守されます。

▼日時…平成7年1月23日(月)～1月27日(金)、午前9時～午後4時
▼場所…種子島簡易裁判所相談室(市内中目、種子島開発総合センター前)

▼相談料…無料

▼主催…種子島調停協会

▼問い合わせ先…種子島簡易裁判所 ☎②0159

あなたのクルマは大丈夫? 違います! 車検と定期点検

最近の車は、技術の進歩によって故障しにくくなっていますが、車は多くの部品の集まりで、走行により部品の摩耗や劣化が進みます。

車検は、車が安全や公害面で支障がないかを一定期間ごとにテストや目視による方法でチェックしており、分解して行う検査ではないので、ブレーキなど見えない

部品の摩耗状況のチェックはしていません。ですから、車検を受けたからといって次の車検まで絶対大丈夫とは言えません。

自動車の故障は、突発的に起こることが多いため、大事故や路上故障による交通渋滞を引き起こす危険性を秘めています。定期点検整備を行い、安心してドライブを楽しめるようにしましょう。

▼問い合わせ先…鹿児島陸運支局整備課 ☎0992・61・9194

ロランC受信機改修を

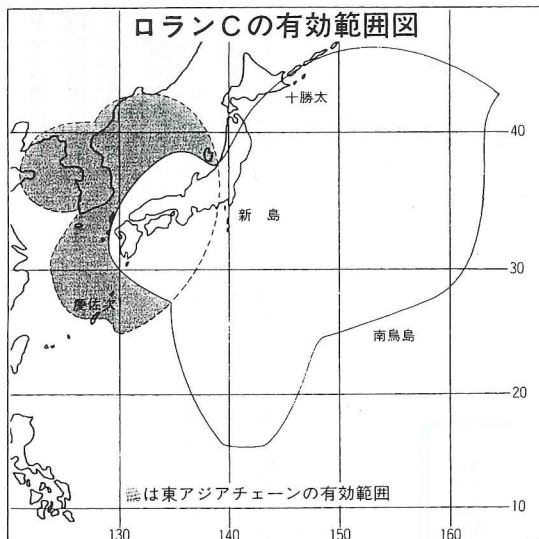
海上保安庁は、これまでの硫黄島主局を中心としていた「北西太

平洋ロランC」を伊豆七島の新島に移し、10月1日から運用を開始しました。識別符号も「9970」から「8930」に変わります。

ロランCとは、長距離用の電波航法システムで、3局以上のロランC局から送信される電波を受信し、自船の位置を求めることができます。主として漁船が利用しており、現在、ロランC受信搭載船は全国で約3万隻。

新しいネットワークの運用が開始したことから、これまで自動的に緯度、経度を表示できる受信機を利用している方は、受信機が新識別符号を受信できるようROM(読み出し専用記録素子)を変更する必要があります。

まだ改修していない利用者は、購入店などにお問い合わせください。なお、現在、韓国が運用している「東アジアチェーン(主局ポーハン識別符号5970)」は変更はなく、従来どおり利用することができます。



11月の青果市況				
種子島公設地方卸売市場				
入荷量 157.7トン		島内産 33.7トン(21.4%) 島外産 124.0トン(78.6%)		
取引額 3,186万円		島内産 839万円(26.3%) 島外産 2,347万円(73.7%)		
種 類	入荷量トン	取引額千円	単価円/kg	
島内産野菜類	根 菜 類	5.4	818	151
	葉 茎 菜 類	14.8	2,849	193
	果 菜 類	3.2	651	204
	そ の 他	7.7	1,791	232
	小 計	31.1	6,109	196
島内産果実類	い ち ご	0.3	624	1,814
	そ の 他	0.4	50	146
	小 計	0.7	674	981
島内産鳥卵・加工品等		1.9	563	
島内産花類		66.5千本	1,044	
◎野菜、果物、花類の出荷をご希望の方は種子島公設地方卸売市場(天神町②0216)をご利用下さい。				
◎日曜、祝祭日と毎月第2水曜日、市場は休みです。				

新 着 図 書

市立図書館
☎②1111 内線274

- おかあさんとおやくそく てらおかくにお
○中学生日記 三者面談他 蓬萊 泰三
○水木しげるのおばけ学校
1～20巻 水木しげる
○やったじゃない！マイフレンド 岡本 螢
○大当りズッコケ占い百科 那須 正幹
○ズッコケ山岳救助隊 那須 正幹
○酒つくり自由化宣言 吉田 敦彦
○読み解き異端古代史書 田中 勝也
○ここが肝心イナ作診断 鈴木 恒雄

鉄砲館だより

種子島開発総合センター
☎③3215(サーミニイコ)

※総合センター内の市民作品展示コーナーは入場無料です。お気軽に入館・ご鑑賞ください。

※ 1月の展示

- 種子島高等学校生美術展 12/26～1/24
○パッチワーク作品展 1/26～2/10
○写真五人展 1/26～2/10

平成7年	休日在宅医	休日営業スタンド			
1月1日 元旦(日)	中目医院 野首③0350	全	店	休	業
2日 振替休日(月)	松崎医院 西町③2455	全	店	休	業
3日 (火)	井元医院 東町②0075	午 前 中 全 店 営 業			
8日 (日)	田上病院 松島②0960	種子島石油 鴨女町②1347	鮫島石油店 現和⑥0005		
15日 成人の日(日)	池田医院 天神町②0260	市農協第1 川迎②0543	中村石油店 現和⑥0021	江口石油店 国上⑧0808	
16日 (月)	多愛病院 中目③2401	全	店	休	業
22日 (日)	中目医院 野首③0350	有馬石油店 西町②0121	瀬下石油店 住吉③3836	川添商店 現和⑥0810	水口石油店 国上⑧0007
29日 (日)	松崎医院 西町③2455	種子島石油 東町②1345	徳永石油店 安城③7379	一口石油店 安納⑥1111	
2月5日 (日)	井元医院 東町②0075	三栄石油商会 天神町②1251	市農協第2 石堂②1219	内門商店 沖ヶ浜田②0291	向江商店 安納⑥1147
11日 建国記念の日(土)	田上病院 松島②0960	全	店	休	業
12日 (日)	池田医院 天神町②0260	種子島石油 鴨女町②1347	鮫島石油店 現和⑥0005		
19日 (日)	多愛病院 中目③2401	市農協第3 松島③0128	中村石油店 現和⑥0021	江口石油店 国上⑧0808	
26日 (日)	中目医院 野首③0350	有馬石油店 西町②0121	瀬下石油店 住吉③3836	川添商店 現和⑥0810	水口石油店 国上⑧0007

- ◎ おたより : 種子島を離れて30年余り、友人のおかげで市政の窓を送って頂き、なつかしく
ニュースも身近にわかり毎月楽しみにしております(池田ナリ子さん、長崎市)。



Portugal 旅 ④⑧

ポルトガルへの

草の根交流 ポルトガル珍道中記 ⑧

今月のレポーター
中村 勇さん

日本・ポルトガル
草の根交流団員

(南種子町連合青年団
南種子衛生)

姉妹都市ヴィラ・ド・ビスポ市で初めての朝を迎えた我々一同は、充分な睡眠にも助けられてとても気持ちの良い朝を迎える事となる。
(注：前号で私達若者4人組は真夜中の闇に消えていった：とあるが、それはヴィラ・ド・ビスポ2日目の事である。市の青少年局長と近くのビリヤードバーへ出向き、サグレスの若者達と多に交流を楽しんだだけなのだが、記憶力の良い吉村さんでも間違え事はあるものだ。うらやましかったのかな?)
ホテルの朝食はとても素晴らしいバイキングで、みんなそれぞれに料理を取り、テーブルにつく。しかし、日本を離れて5回目の朝食。なぜか、みんな食欲が進まない。どんなに美味しい料理でも、やはりご飯とみそ汁、たくあんや育った我々には合わないのだろうか? 梅干が食べたい。そんな事を話しながら食事をしていると突然吉村あによろがバッグの中から何

やら袋を取り出した。なんと、お茶漬である。しかし、ご飯がない。それでも日本食が恋しい私達はスーパのかわりにでもならないかとホテルの人にカップとお湯をもらい、それを注いで飲んでみる。うまい、とてもうまい!! すまし汁の様なそのスープはどんな高価な料理よりうまいとさえ思える。やはり、つくづく日本人である。そんなこんなで朝食を終えた我々は車に荷物を積み込み、ビスポ



ビスポ市役所の近くで毎週行われる市場に参加し、人気を呼んだ(1994.3.24)

市役所のすこし奥の方にある青果市場に向かう。バザーをするためである。このバザーはビスポ市の市民に喜んでもらおうと事前の打ち合わせの時、名越さんの発案で日頃使わない茶碗などを持ち寄り、日本文化というものをビスポ市民にわけてあげようというものである。集めた品物は約300点。事前に航空便で送っていたため、みんなダンボールの中である。
市場に着き、ダンボール箱を会場に運んでみると、もう市民が集まりだしてくる。全部、中に運び終わり、みんなハッピーを着て、いざ戦闘開始!! もしかしたら全然売れないのでは? という我々の不安をよそに、ものすごい勢いで売れていく。まるでデパートの特売に群がる様な感じである。ならば始めて30分位で完売する。中には3,000エスクードの値札を付けた虎(トラ)の置物もあったが、それが一番最初に売れてしまった。総売上げは2万8,400エスクード。最終的には、全額ビスポ市に寄付するのだが、とにかく最高の出来である。バザーの成功に全員胸を撫でおろしているとき、最後までも残っていた市民から「次は、いつ来るの?」 ええっ、聞いてないよう!!

ぽるとがる・ぐっず・プレゼント!!



日本・ポルトガル草の根交流団員5人がポルトガル製品を抽選で10名様にプレゼントします。おみやげの品はTシャツやコルク製のコースター、壁かけなど。ご希望の方は、官製ハガキ(1人1枚)に住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、次までご応募ください。

【応募先・問い合わせ先】

〒891-31 西之表市西之表7612 ☎②1111 総務課「市政の窓」係

【応募締切】平成7年1月31日出消印有効

【その他】プレゼントの発送は平成7年2月中旬。プレゼントの品は団員におまかせください。おたのしみに!!